

# 障がい者の雇用対策（ステップアップカフェ（仮称）の検討）

【資料8】

「作業」から「訓練」へ、「福祉」から「就労」への流れを促進できるよう、カフェの整備を通じて障がい者がステップアップできる仕組みを構築。

障がい者が「当たり前」に働いていける」という姿を目指す。

◆障がい者を支える現場の声◆
「障がい者の実践の場」
○福祉作業内ではできない実践的な実習が必要。 ○カフェには障がい者の就労につながる多様な作業（袋詰め、皿洗い、計量等）がある。
「授産品が売れること」
○障がい者が作った加工品等が売ったり、展示できるチャレンジの場が欲しい。 ○販路拡大に関わる人材が不足
「企業と障がい者訓練の場をつなぐこと」
○障がい者の成長には準備の時間が必要。 ○企業と障がい者をつなぐ中間支援の場があると、企業が安心して障がい者雇用に取り組むことができる。

障がい者の訓練の場としての  
カフェ機能  
(障がい者雇用の見える化)  
緊張感のあるリアルな体験が障がい者の成長につながる

アンテナショップ機能  
(授産品の販路拡大、工賃アップ)  
目の前で商品が売れることが働くことのモチベーションにつながる

中間支援機能  
(企業と障がい者訓練の場をつなぐ)  
障がい者が企業での就労に向けた準備機能につながる

## 6つの視点（課題）

- ①県民が障がい者と交流し理解を深める場づくり
- ②障がい者が就職に向けてステップアップできる実践的訓練
- ③障がい者が活躍できる職域の拡大
- ④企業と障がい者の接点を増やし、「障がい者が戦力になる」ことの理解の促進
- ⑤障がい者が企業で定着し戦力になるための仕組みの強化や、関係機関ネットワーク化
- ⑥授産品のブラッシュアップ等による売れる商品づくりへの支援

就労へのステップアップ  
障がい者の戦力化

障がい者の雇用拡大

障がい者の働ける仕事の確立

## 障がい者雇用を推進するには「県民総参加」での取組が重要

- 障がい者雇用の取組についての支援やPRの協力といった「企業による支援」
- 県民に幅広く応援いただき、カフェの活用を通じた交流といった「障がい者との交流」
- 地域、企業でのイベント等による商品販売等の協力といった「商品の購入」



設置場所	三重県総合文化センター 男女共同参画センター1F 「フレンテみえ」内ふれあいコーナー
------	--



